

事業報告書

1 支援団体名	特定非営利活動法人 南畑ダム貯水する会
2 事業名称	よい水循環、総合治水、よい川の社会啓発事業
3 実施日時	平成 25 年 3 月 2 日 13～17 時
4 実施場所	福岡大学図書館 福岡市城南区七隈 8 丁目 1 9-1
5 事業目的、内容及びその効果	<p>(事業実施状況・内容)*できるだけ詳細に 平成 24 年九州北部豪雨を振り返る、雨水ネットワーク九州共同開催シンポジウム ～雨の危険と恵み、市民にできること～</p> <p>[開催主旨] 平成 16 年度から毎年、シンポジウム「雨から川へ、水のつどい」を 福岡県県土整備部河川課と、雨水貯水を進める NPO とが開催し、都市型水害の問題を解決するために、「地域に雨が降ってから川へ流れ込むまでの間」で行う雨水流出抑制の必要性について、様々な立場の人々が集い、意見を交換することを目的として開催してきました。</p> <p>今年度は夏の豪雨水害の影響により例年のような開催はできませんでしたが、福岡県西方沖地震発生 2 年後の平成 1 9 年 3 月 2 1 日、福岡市役所西側ふれあい広場で開催した「ありがとうふくおか 2 0 0 7」という福岡県内の市民団体、個人、行政、企業などの協力で開催されている防災どんたくの一環として、さらに広い連携をとり防災にかかるシンポジウムを開催いたします。</p> <p>[要旨] 近年、いわゆるゲリラ豪雨による水害が多発しています。このような災害は都市化による流出形態の変化によるもので、国土の改変によって水循環系が変わり、洪水が発生しています。かつての水田や山林は住宅地へと変わり、都市に降った雨は途中で溜まることも浸透することも無くあつという間に河川へと流出。都市化によって洪水到達時間は驚くほど短縮し、ピーク流量は 2 倍以上になっています。</p> <p>このような地域の課題に対処するためには、これから住宅、公共用地、公共施設などに水をため、浸透させるなど、洪水処理と同時に適正な土地利用のあり方を求め、さらに自然環境の回復も実現する方向での議論が始まっています。「水のつながり（人のつながり、世代のつながり）」を再生するという視点で、福岡の環境とこれからの考えてみましょう。</p> <p><内容> 第一部：各地からの報告（各 15 分）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①仮）昨年の豪雨災害と復旧の状況について報告 ②福岡で始まっている流域治水とは ③兵庫県における総合治水の取り組み ④雨水ハウス報告 ⑤“我が家の雨からコツコツと” みんなで取り組むウッドデッキ雨水貯留 ⑥雨水利用 沖縄の事例 ⑦水資源啓発事業「小さな循環いい暮らし事業」報告 ⑧森林保全の啓発活動について報告

	<p>第二部：ディスカッション（60分）</p> <p>日時；平成 25 年 3 月 2 日 13～17 時</p> <p>場所；福岡大学図書館 福岡市城南区七隈 8 丁目 1 9-1 お問い合わせ先（事務局 山下 090-8402-0777）</p> <p>主催；NPO 法人南畑ダム貯水する会、福岡県</p> <p>共同開催；雨水ネットワーク九州、樋井川流域治水市民会議、雨から川へ水のつどい、福岡県建築士会</p> <p>※別紙報告書参照</p>
6 参 加 内 訳	総人数 110 名
	(1) 主催者参加 10 名
	(2) 日本人参加 ((1) を除く) 100 名
	(3) 外国人参加 ((1) を除く) 名
7 今 後 の 方 針	<p>毎年、河川管理者と、雨水をためる市民団体との高齢のシンポジウムとなり、行政と市民をつなぐ、さらに多くの方が水循環にかかわることのできる場として、このシンポジウムは定着した。</p> <p>ここで生まれたネットワークが、さらに広いつながりとなるために来年からも事業を継続させていきたい。</p>

